



光はさ…もし、お父さんにまた、会えるなら会いたい？」

「…なによ、藪から棒に。」

「…。」

「昨日、寝言言ってた？」

「うん…。」

「確かに、そんな夢見てたわ気がするわね。」

…どうかしら、流石に死んだ人間が蘇らないくらいの分別は、嫌でも付いてると思うけど。」

「でも、DW って正直なんでもありだし、もしかしたら。」

全部終わったらさ…探してみない？」

ヴォーボモン達には悪いけど、俺は付き合うよ。」

「…正直、パパとママとまた一緒に暮らせるなら…。」

…あんた達はどうか知らないけど私は、多分…幸せなのよ。」

でも、きっと…もしパパが帰ってくる方法があるならあんた達も切り捨てちゃうかも。」

「…そっか。」

「誤解しないでよ、どっちが良いって話じゃないのよ。」

デビドラモンも…あんな酷い目遭わせたのに、私に甘えて…柄じゃないけど可愛くしてしょうがないのよ…それにあんたも。」

ヴォーボモンだってクソ生意気だけど、弟いたらあんななんだって思うし。」

だから、あんた達と一緒にいたい。」

でも半分くらい自業自得だけどそれと同じくらい今まで嫌な目にも遭ってきたのよ…それが今の幸せと切り離せないのが嫌くらい分かるの。」

もし、それから逃げ出せるなら…私は、逃げ出しちゃうと思うの、卑怯者だから。」

色んな奴らに…あんた達に迷惑かけてでも。」

殺してやりたい程嫌いだった自分に戻って、それに目を背けるっていう、絶対やりたくない事にも。」

それが分かってるから、いいの。」

「…。」

勇太には、何も言えなかった。」

それに光が言う逃げる事が決して悪い事にも思えなかった。」

「…だから、もし私が逃げたら、あんたとヴォーボモンが絶対に捕まえに来て引っ張り戻してよ。」

デビドラモンは…あの子私のパートナーな癖に、優しいから…クソな私にも付き合っちゃうのが分かるのよ。」

「…分かった。」

「頼んだわよ、ヒーロー。」

「いつも馬鹿にする癖にそういう時だけ言うのズルくない？」

「あら？私がズルい女なんて、あんたは百も承知でしょ？」